

# 活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん）140		
タイトル	アコンカグア登山を振り返り、自然と人間を考える		
実施日時	平成28年10月20日（木）18：45～20：45		
実施場所	船橋市 中央公民館		
受講者	8名	FIC会員	7名

## 活動の内容

講師は千葉県森林インストラクター会と神奈川会(JFIK)で活躍する松井公治さん。今年登頂したアンデス山脈の南米最高峰 6,960.8m「アコンカグア」から「ガラパゴス諸島」訪問までの興味深い話を受講者の希望で休憩時間なしで時間ぎりぎりまで講演していただいた。

### 1. 「アコンカグア」

本格的な登山へのきっかけは教員仲間に誘われた奥多摩登山が大変面白く、その友人も登山パーティ仲間を探していたことから始まった。その後カラコルム山脈に6回、ヒマラヤ山脈ナンガパルパット3回と過酷な登山にのめりこんで行った。そんな中、ナンガパルパットで登頂後のピヴァークにより両手足の第一関節の指を凍傷で失うことになった。

アコンカグアとは「雪」の「山」との意味で、上記のような過酷な登山ではなく、アンチエイジングの意味もあり比較的に登頂が容易な登山ということで今回挑戦した。アンデス山脈はナスカ海洋プレートが南アメリカプレートの下に潜り込んでできた。日本と生い立ちが似ているので火山活動が盛んである。しかしアコンカグア自体には火口も噴火の記録もない。登山に適した12月～2月で天気に恵まれれば技術的には難しくはない。また、現地でのレスキュー体制や諸設備、メディカル面なども充実している。高山病対策として高度順化のため余裕を持った日程で取り組んだ。

また、本人の体験として、高山など極限状態にいるときに、本来そこに居ないはずの存在を感じたり、声が聞こえるというサードマン現象や、臨死体験としてナンガパルパットでヒドンクレバスに落ち雪に埋まり、酸欠状態になり意識が遠のく中で自分の人生が色鮮やかに走馬灯のように流れていくのを見たとのこと。体験後の人生観として、「日常の何気ない会話、行動、自然など、当たり前なのが意味のあるものとして評価するようになった。」また、「人生は意味に満ちており、全ての人生には神聖な目的がある」など感じるようになった。そして死への恐怖が無くなるとのこと。

森林インストラクター的には高山の環境では生物相は少なく、植物ではマメ科が多く、動物は猛禽類、動物遺体を食べる人になついた小鳥、野ウサギなど限られる。

### 2. 「ガラパゴス」

ここではゾウガメや野鳥のダーウィンフィンチなどオーストラリア大陸の有袋類と同じような隔離的な地域で特異な生態系が発達する適応放散の現象が見られる。また、島の高度、海からの距離、地形の変化に伴い植物相も変化していき興味深い。ガラパゴスで携帯電話(ガラ携帯)ではなくスマホを落としたとの「落ち」で講演終了となった。



アコンカグア南壁



アコンカグア山頂



手乗りフィンチ